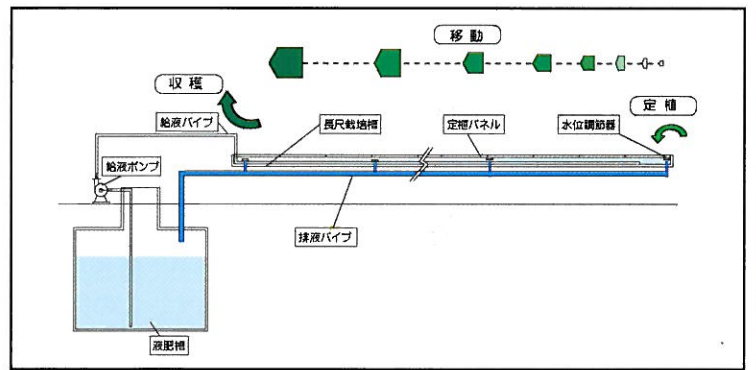
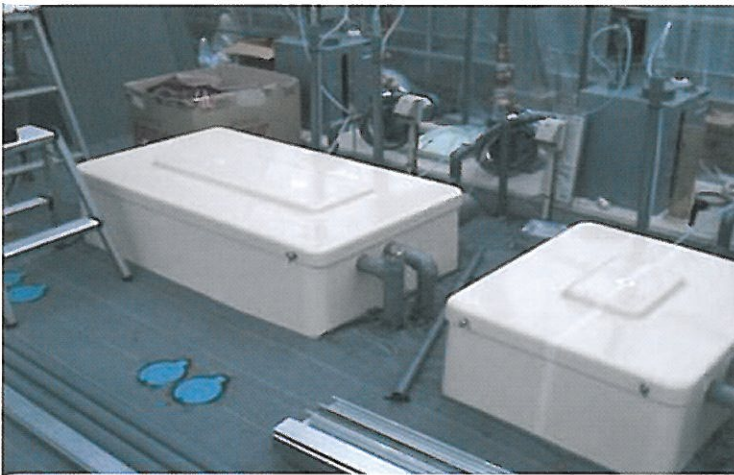


水気耕栽培ハイポニカ葉菜Ⅱ型プラント

～ 太陽光利用型簡易植物工場 ～ (特許出願中)

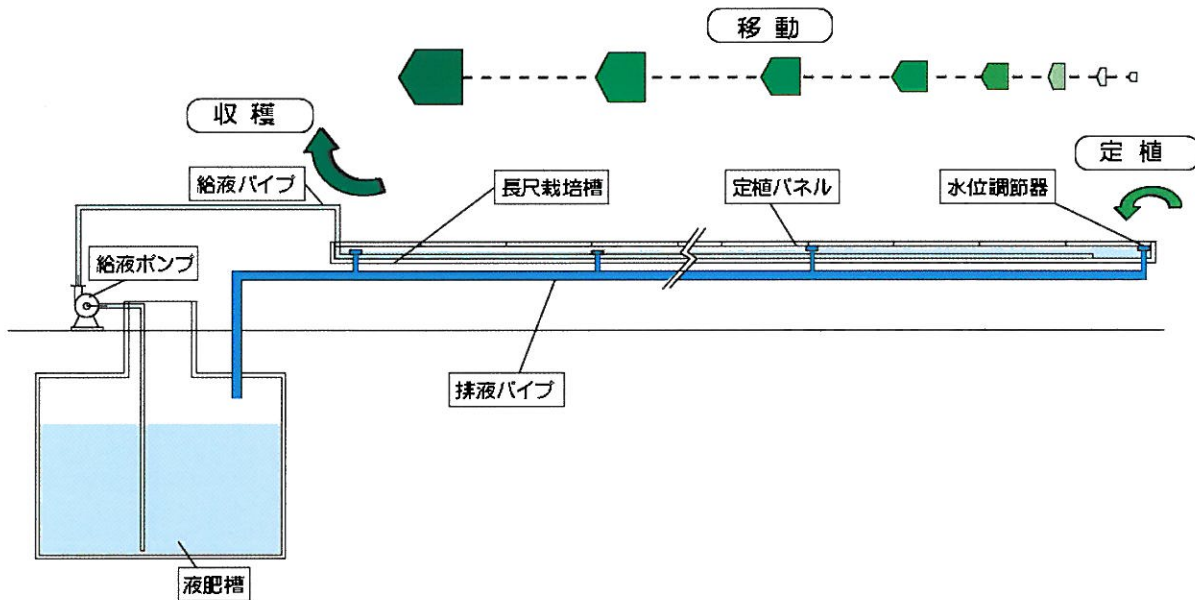
新開発



ハイポニカ葉菜Ⅱ型の特徴

- ◆ 栽培槽内の環境の安定化
葉菜Ⅱ型は長尺にしても温度や肥料濃度、または水位などの条件を、どの場所でも安定するような給排水方式を採用し、さらに栽培槽の断熱、給液配管を栽培槽内に設置するなど、夏場の温度上昇や冬場の放熱に優れた機能を発揮するため、季節による生育の差が少なくなり安定した生産が可能になりました。
- ◆ 作業性の向上
長尺栽培槽内で定植したパネルを一端から入れ、そのパネルを移動しながらもう一端でパネルごと収穫する栽培方法だから、作業スペースは両端だけで通路での作業は保守の時だけです。そのため栽培のための移動距離や作業は大幅に低減しました。さらに広いスペースで作業できるから障害者や高齢者の方にも最適です。
- ◆ 生産性の向上
長尺栽培槽、移動パネル方式にすることで、栽植本数を最大13%増大することができました。
- ◆ 投資効率の向上
機能、性能を高めながら、栽培機材の材質から構造までを見直すことで、最大30%の設備費を低減することに成功しました。(当社比)

葉菜Ⅱ型栽培プラント 模式図



水気耕栽培ハイポニカが目指す植物工場とは

- ◆ 自動化より省力化
ハイポニカが考える自動化はロボットや機械化を進めることではなく、無駄な作業を省ける栽培方法に変える事です。高価な自動機械より作業を効率化することで、障害者や高齢者の方でも快適に働ける場を提供することが重要です。
- ◆ 環境制御技術より、より強い作物を育てること
高度で高価な環境制御をすることより、どんな環境でも育つ強い作物を栽培できること、この考え方がハイポニカの基本です。だから巨大トマトのような強い作物を育てる栽培環境と技術が絶対条件となります。
- ◆ 太陽光利用型
光合成に最も重要な光エネルギーは太陽光に優るものではありません、太陽光が利用できる場所では設備費もランニングコストも高価な人工光ではなく、この只で使える自然の恵みを最大限利用することが食料生産や農業経営にとって最も有利な選択です。
- ◆ 生産から販売まで一貫思想
農業とは製造業です、ですから生産から販売までを同時に進めなくては経営が成り立ちません。ハイポニカでは販売することを最優先に考え、生産から販売まで一貫した設計と指導をします。